



陽殖園 (滝上町)



春はスイセンが咲いていた斜面は、秋にはハギが咲き乱れる

日本一変わっている花園

この庭園は、園主である高橋武市^{ぶいち}氏が、1955(昭和30)年の中学生の時から全く独力で造り始めたものである。この時、生涯をかけて造る庭を「太陽が育て殖やしてくれる庭」という意味を込めて『陽殖園』と命名した。以来60年の歳月を積み重ねながら、いまだに完成には至らず、日々こつこつと造り続けている。何かを参考にするとか、誰かに教えを受けるといふこともなく、氏の感性と豊富な植物に関する知識、そして自然環境を見抜く力によって造成が進められてきた。その意味から、まさに看板通りの花園であるといえよう。

厳しい気象条件の中で、これほど豊かな植物景観を作り上げてきた技術の素晴らしさに加え、氏の人柄に惹かれる道外のツアー客が来訪者のメインとなっていることから、この庭園の存在が、地域の魅力づくりに大きく貢献している。



春にエリカが咲く山では、秋にはカルーナが咲き誇る

概要

名称	陽殖園
所在地	北海道紋別郡滝上町あけぼの町
管理者	高橋武市
規模	約80,000㎡
種別等	庭園
整備開始年	1955(昭和30)年



首に巻いた手ぬぐいがとてもお洒落な武市さん